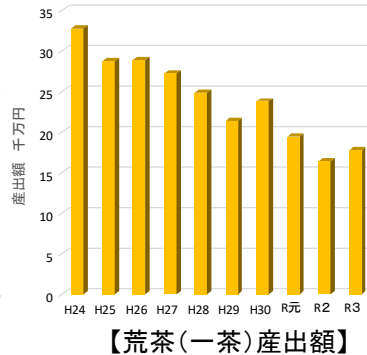


○ 取組の背景

- ・西部農林事務所管内における令和元年の茶生産は、面積800ha(推計値)で県内シェア5%、産出額9億で県内シェア3%程度であるが、天竜地域の茶生産は西部地区の70%(550ha)を占める地域の基幹作物である。
- ・消費者の購買スタイルが多様化するのに伴い家庭用や贈答用等でリーフ茶の需要が縮小し、天竜管内の荒茶販売量、産出額も長期的に低迷している。
- ・天竜管内の茶業は、山間地特有の味や香りに特徴のある良質な茶が生産できるものの、価格面で十分な評価が得られていない。
- ・海外で有機茶、抹茶・粉末茶の需要が高まっていることから、中山間地の特色を生かした有機茶やてん茶の生産が求められている。



○ 課題・目標

天竜地域茶業の課題

- ・脆弱な経営規模
- ・生産性の低さ
- ・担い手不足
- ・品質に対する価格面の評価が低い

有機茶・てん茶
生産拡大

担い手確保

小売強化

優良茶園
の確保

【目標】
中山間地の特
徴を生かした
天竜地域茶業
の活性化

普及指導員の活動

○ 推進方向1 「てん茶の品質改善と生産拡大」

■ てん茶の品質向上支援

- ・葉色を向上させる施肥時期・被覆条件の検討
- ・てん茶の色合いを改善する製造条件の検討
- ・摘採ピークの平準化に向けた春整枝実証試験
- ・秋てん茶生産に向けた二番茶後のせん枝時期の検討 【てん茶炉製造条件の検討】



■ てん茶の生産拡大支援

- ・茶産地構造改革推進事業等の活用

■ 複合作物による経営安定支援

- ・茶工場周年雇用のための複合作物の検討



【被覆棚の導入】

○ 推進方向2 「有機茶の生産拡大」

■ 新たな有機茶への取組みを支援

- ・有機茶栽培セミナーの開催

■ 新たな有機茶生産の拡大支援

- ・農業次世代人材投資事業等の活用
- ・有機栽培転換技術の検証

■ 海外輸出等による新たな販路開拓支援

- ・流通販売事業者とのマッチング支援



【セミナーの開催】

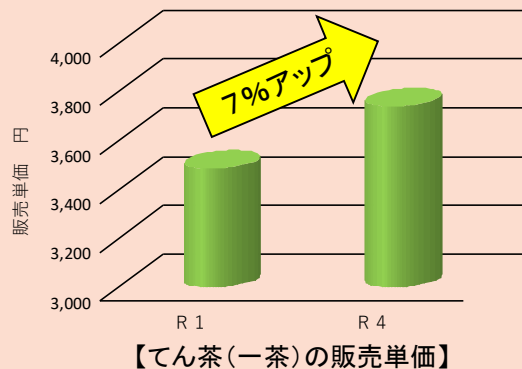


【新規就農者の茶園巡回】

○推進方向1 「てん茶の品質改善と生産拡大」

■てん茶の品質向上支援

- ・各種検討結果をまとめた**濃緑てん茶生産マニュアル**により田河内茶業共同組合を指導した結果、**てん茶単価が向上した**。
- ・天竜愛倶里ふぁ一むの茶園で、**春整枝が萌芽を6日程度遅延**させることを確認(=摘採期延長)。R4年は**70a**で春整枝を実施した。
- ・田河内茶業共同組合の二番茶後の**せん枝時期を7月上旬**にするよう指導した結果、**秋てん茶580kg**が生産された。



■てん茶の生産拡大支援

- ・天竜愛倶里ふぁ一むが**被覆棚(17a)**を設置し、被覆棚の設置面積は合計43aに増加した。
- ・丸泉砂川共同製茶組合が**被覆棚(6.5a)**を設置し、秋てん茶730kgを収穫した。



【キクラゲ菌床栽培】

■複合作物による経営安定支援

- ・天竜愛倶里ふぁ一むでは、**キクラゲ及び椎茸の導入**を決定した。R4年は、**キクラゲ1,000菌床、椎茸400菌床**を栽培。

○推進方向2 「有機茶の生産拡大」

■新たな有機茶への取組みを支援

- ・セミナー参加者のうち春野町の茶工場が慣行茶園を**有機JASへ転換中(5ha)**。

■新たな有機茶生産の拡大支援

- ・**2名の新規就農者**が、丸泉砂川共同製茶組合で茶業経営を開始し、特色ある商品を製造しながら経営を発展させている。
- ・丸泉砂川共同製茶組合の**有機及び転換中茶園(460a)**で品種別収量・病虫害抵抗性、土壌化学性等の分析を実施し、新たに有機茶生産を始める人のための**転換技術**を検証している。

新規就農者	経営面積	商品
渥美良太氏	20a→80a	煎茶 紅茶 ほうじ茶 烏龍茶
山本義晃氏	100a→150a	煎茶 紅茶 ほうじ茶

■海外輸出等による新たな販路開拓支援

- ・田河内茶業共同組合は、海外の茶流通事業者と連携し、**米国**におけるオーガニック静岡茶市場の**販路拡大に取り組んでいる**。
- ・丸泉砂川共同製茶組合及び田河内茶業共同組合は、茶輸出会社及び茶商と連携して**浜松有機茶推進協議会**を発足し、春野茶を**南米等を中心に輸出を始めている(500kg以上)**。

